2年 算数科「かけ算(2)」

単元名	かけ算(2)	対象・日時	第2学年1組・11月25日(水)
着眼点	「1つ分の数」をとらえてそれをひとまとまりとみて、その「いくつ分」ととらえる。	本時のめあて	同じ数のまとまり(1つ分の数)を作って、くふうして計算しよう。
本時の目標	乗法の意味について理解を深め、計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質やきまりを見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。	評価	ものの数の求め方を、乗法を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。(観察・ノート)

板書計画



主な学習活動

	主な学習活動	着眼点にせまる手だて
導入 (5分)	1.チョコレートの図の一部分を見て、チョコレートが全部埋まっていた場合のかけ算の式を考える。 T:「この図を見ると、チョコレートは全部で何個ありそうですか?」 C:「6×5で30こ。」 2.本時の問題を提示し、チョコレートの図を見て気付いたことを話す。解決方法の見通しを持つ。 T:「この図を見て気付いたことがある人はいますか。」 C:「チョコレートがないふぞろいがある。」 T:「全部入った箱なら『6×5』で一発でできますね。じゃあ、この欠けた箱も『1つのかけ算の式』で求められますか。」 C:「列によって『6こ』『5こ』『4こ』でバラバラだからできない。」 T:「かけ算が使えるのって、どんな時?」 C:「『1つ分の数』がみんな同じになっているとき。」 C:「まとまりを作ったらいい。」 T:「じゃあ、そのままじゃ使えないこの図から、『同じ数のまとまり(1つ分の数)』を作り出す工夫をして、かけ算で求めてみましょう。」 3.本時のねらいを確認する。 「同じ数のまとまり(1つ分の数)を作って、計算しよう。」	・「1つ分の数が揃っていないと乗法が使えない」ことに気付かせる。 ・「1つ分の数×いくつ分」を再確認する。 ・着眼点を明記した「めあて」を設定する。
展開 (30分)	4.チョコレートの数の求め方を考える。 【自力解決】 ・ノートに自分の考えを書く。 ★分けて考える。(**わけるさくせん**) 式 3×2=6 6×3=18 6+18=24 ★動かして考える。(**うごかすさくせん**) 式 6×4=24 ★全体からひいて考える。(**ぜんたいからひくさくせん**) 式　5×6=30 30−6=24 【考えの共有】 ・グループの人に自分の考えを図や式、言葉で伝える。 【全体共有】 ・考えを全体で共有する。 T:「みんなの考えを聞いて気付いたことはありますか。」 C:「どの考えも同じ数のまとまりを作ってかけ算にしている。」 C:「動かすと、1つの式になるから簡単にできる。」	・机間指導を行い、「1つ分の数」が意識できているか見取る。 ・図の縮小コピーを何枚かずつ配り、ノートに図を貼って何通りか考えを書けるようにする。 ・自分の考えを、図に書き込んだり、式であらわして書くよう指示する。 ・考えが書けた児童には、別の考え方に挑戦したりするよう指示する。 ・机間指導をしながら、様々な考えの児童を見付ける。 ・これ以外の考えが出てきたら、まとまりを意識してできているか、くふうして計算できているかを確認し、必要に応じて声をかけていく。 ・図や式、言葉で工夫して考えを伝えるよう声をかける。 ・各班の代表児童のタブレットで、教科書のコンテンツを使用し、実際にチョコレートを動かしたり、丸で囲んだりしながら考えることで多様な考えに気付かせる。
まとめ (10分)	5. 着眼点を意識しながら、本時の学習をまとめる。 「わけたり、うごかしたり、ひいたりして、まとまりの数を作ってくふうするともとめられる。」	

★指導にあたって

(1)アレイ図を活用した学習活動の工夫
「一つ分の数」と「いくつ分」を視覚的に捉えられるよう、アレイ図を単元を通して活用してきた。かけ算の各段の学習でも共通して用いることで、扱う数が変わっても、「一つ分の数」と「いくつ分」に着目して考えられるようにしてきた。また、丸の並び方を視覚的に捉えられるアレイ図を用いることで、同じ数のまとまりを見付けたり、かけ算の式と結び付けたりしやすくなると考えた。
本時では、アレイ図を活用し、児童が視覚的・操作的に同じ数のまとまりを捉えられるようにする。まず、一人一枚ずつアレイ図を配付し、個人思考の際に、丸で囲んだり、線を引いたりすることでまとまりを作ったり、式を書き込んだりできるようにする。一人一人が自分の考えを図に表すことで、思考の過程を可視化し、自分なりの方法で解決することにつなげたい。また、書き込んだ図を手掛かりにすることで、グループでの交流の際にも、自分の考えを説明しやすくなると考える。さらに、教科書のQRコードを活用し、グループの代表児童が画面上の●を自由に動かせるようにすることで、チョコレートの並び方を変えながら、自分なりのまとまりを作ったり、他の友達に説明したりすることができるようにする。これまでの学習で大切にしてきた「一つ分の数」に着目し、「分ける」「全体から引く」「動かす」という既習の作戦を生かしながら、図の特徴に応じた方法を考えさせたい。操作を通して、様々なまとまりの作り方があることに気付き、図と式を関連付けながら、かけ算を用いて全部の数を求める力を育てたい。

(2)対話活動の充実
児童一人一人が自分の考えをもち、友達との関わりを通して考えを広げたり深めたりできるよう、個人思考、小グループでの交流、全体共有の三段階で対話活動を設定する。まずは、個人で図を見ながら、これまでに学習してきた「分ける」「全体から引く」「動かす」の作戦を生かし、自分なりの方法でまとまりを作って答えを求める。次に、小グループで考えを交流する際には、自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えを最後まで聞き、自分の考えとの共通点や相違点を見付けたり、疑問に思ったことを質問したりできるようにしたい。最後に全体で共有し、様々な考え方に触れることで、自分にはなかった見方を取り入れたり、自分の考えを見直したりしながら、まとまりの作り方やそれぞれの作戦のよさについて考えを深められるようにしたい。

(3)単元を通しての教材の工夫

①九九図鑑
「九九図鑑」を児童と作成した。作成に当たっては、九九の答えを記すだけでなく、「一つ分の数」と「いくつ分」に着目し、九九の構成やまとまりを図で表すことを大切にした。児童自身が九九を図に表すことを通して、数のまとまりを作ることで、式と結び付け、かけ算の意味を捉えられるようにすることをねらった。

②チャレンジ問題
学習したことを活用し、自分で考える機会を設けるための教材として、毎時間チャレンジ問題を取り入れてきた。既習の九九や図などを手掛かりに、様々な問題に取り組めるようにすることで、答えを求める過程でも「一つ分の数」と「いくつ分」に着目することを促してきた。また、「分ける」「全体から引く」「動かす」といった既習の作戦を活用する経験を積み重ねることで、問題に応じて自分に合った考え方を選択できるようにすることをねらった。

本時では、これまでの習熟度別学習で身に付けてきた知識や考え方をクラス全体で生かし、自分に合った作戦を選択し、根拠をもって説明する力を発揮できるようにしたい。